

## 第2章 沼津市と清水町及び沼津市水道事業等の概要

### 2.1 沼津市と清水町の概要

#### 2.1.1 沼津市の概要

本市は静岡県東部に位置し、面積 186.96km<sup>2</sup>（平成 27 年 4 月 1 日現在）、延長 63.02km に及ぶ海岸線を有しており、西は富士市、東は長泉町、清水町、三島市、函南町、伊豆の国市、南は伊豆市と接しています。北部には富士山を望み、北部から東縁南部にかけて愛鷹山や香貫山、達磨山等に囲まれ、西縁部は駿河湾に面し、中央部には国の一級河川である狩野川が流れています。

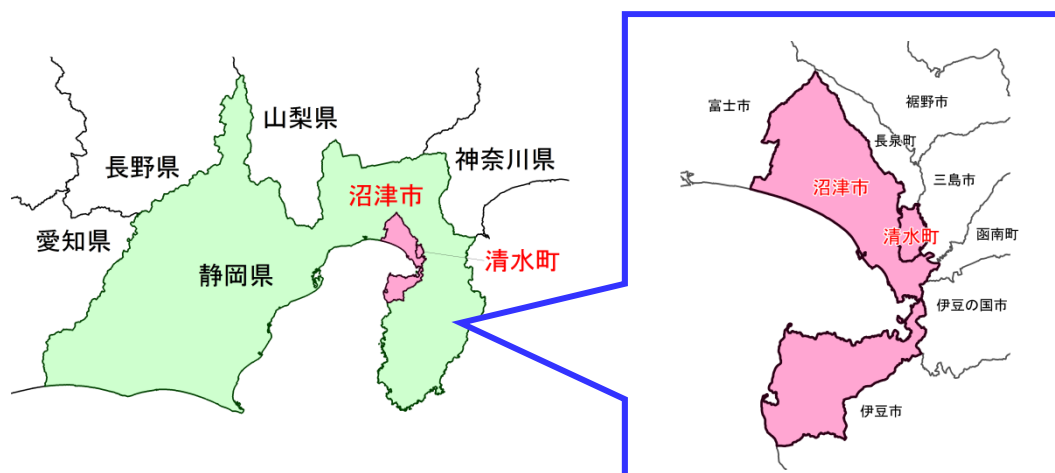
大正 12 年 7 月 1 日に旧沼津町と旧楊原村が合併したことにより本市が誕生し、昭和 19 年に旧片浜村・旧金岡村・旧大岡村・旧静浦村、昭和 30 年に旧愛鷹村・旧大平村・旧内浦村・旧西浦村、昭和 43 年に旧原町、平成 17 年には旧戸田村と合併しています。

また、本市は、海、山、川の豊かな自然環境に恵まれるとともに、東京から 100 キロ圏、東海道の交通の要衝という恵まれた立地条件のもと、経済、文化、行政などの都市機能が集積され、静岡県東部地域の拠点都市として発展し、現在に至っています。

#### 2.1.2 清水町の概要

清水町は、本市の東に隣接する面積 8.84km<sup>2</sup>（平成 27 年 4 月 1 日現在）で県内では最小であり、西に黄瀬川、南に狩野川、町の中央部には名水百選に選ばれた湧水柿田川が流れる緑と清流のまちです。

明治 22 年に伏見村外組合村と徳倉村が合併したことにより清水村が誕生し、以降、行政区域は変わらず、昭和 38 年に町制施行し、現在に至っています。



沼津市と清水町の位置

## 2.2 沼津市水道事業等の概要

### 2.2.1 水道事業等の沿革

本市の水道事業は、昭和22年8月に創設認可を受け、昭和25年7月に泉水源地からの送水を始めました。創設事業では、旧海軍が使用していた施設を譲り受け、これらを活用し、水源池や配水池等の整備を進めました。また、良質で豊富な水を湧出する泉水源地が清水村（現在の清水町）に位置していたことから、両市村の協定により、沼津市と清水村を給水区域としました。

その後、合併等による給水区域の拡張や簡易水道事業の統合など5期にわたる拡張を重ね、現在、計画給水人口237,110人、計画1日最大給水量148,700 m<sup>3</sup>/日の認可を受け事業を運営しています。

また、本市には水道事業のほか簡易水道事業や専用水道があります。

簡易水道事業は、平成17年4月に戸田村との合併により引き継いだ井田簡易水道事業のみとなっており、計画給水人口110人、計画1日最大給水量200 m<sup>3</sup>/日の認可を受け事業を運営しています。

専用水道は、平成27年度末現在、沼津市内に32箇所（うち、16箇所は給水区域内）設置されていますが、水道法の改正等により、所管事務が平成25年度に静岡県から本市へと権限移譲されています。

沿革

年月	沿革
昭和22年 8月	水道事業創設事業認可
25年 7月	泉水源地送水開始
28年 3月	井田簡易水道事業創設
29年 1月	古宇簡易水道供用開始
32年 3月	江梨簡易水道供用開始
35年 3月	水道創設事業完成
35年 4月	第1期拡張事業着工
35年 9月	内浦簡易水道供用開始
36年 12月	足保・久料簡易水道供用開始
37年 3月	河内・木負簡易水道供用開始
42年 1月	平沢簡易水道供用開始
42年 3月	第1期拡張事業完成
43年 4月	原町水道を上水道に統合
45年 4月	第2期拡張事業着工
53年 3月	第3期拡張事業計画認可
53年 3月	第2期拡張事業完成
53年 4月	第3期拡張事業着工
58年 3月	第3期拡張事業完成
60年 4月	拓南簡易水道(私営)を市営足高簡易水道に名称変更
61年 4月	東椎路簡易水道(私営)を上水道に統合
62年 4月	久保簡易水道(私営)を上水道に統合
平成元年 3月	第4期拡張事業計画認可
元年 4月	第4期拡張事業着工
元年 4月	内浦及び足高簡易水道を上水道に統合
3年 6月	青野簡易水道(私営)を上水道に統合
4年 10月	沼津市水道事業変更認可(取水地点の追加)
6年 6月	東原簡易水道(私営)を上水道に統合
6年 7月	鳥谷西簡易水道(私営)を上水道に統合
8年 2月	沼津市水道事業変更認可
8年 3月	河内、木負、平沢(以上市営)、久連(私営)の各簡易水道を上水道に統合
9年 7月	鳥谷東簡易水道(私営)を上水道に統合
12年 3月	第4期拡張事業完成
16年 1月	第5期拡張事業計画認可
16年 1月	第5期拡張事業着工
16年 1月	古宇、足保・久料、江梨(以上市営)、立保(私営)の各簡易水道を上水道に統合
17年 4月	戸田村水道を上水道に統合
27年 3月	第5期拡張事業完成
28年 2月	送水管理センター竣工

2.2.2 水道事業等の施設概要

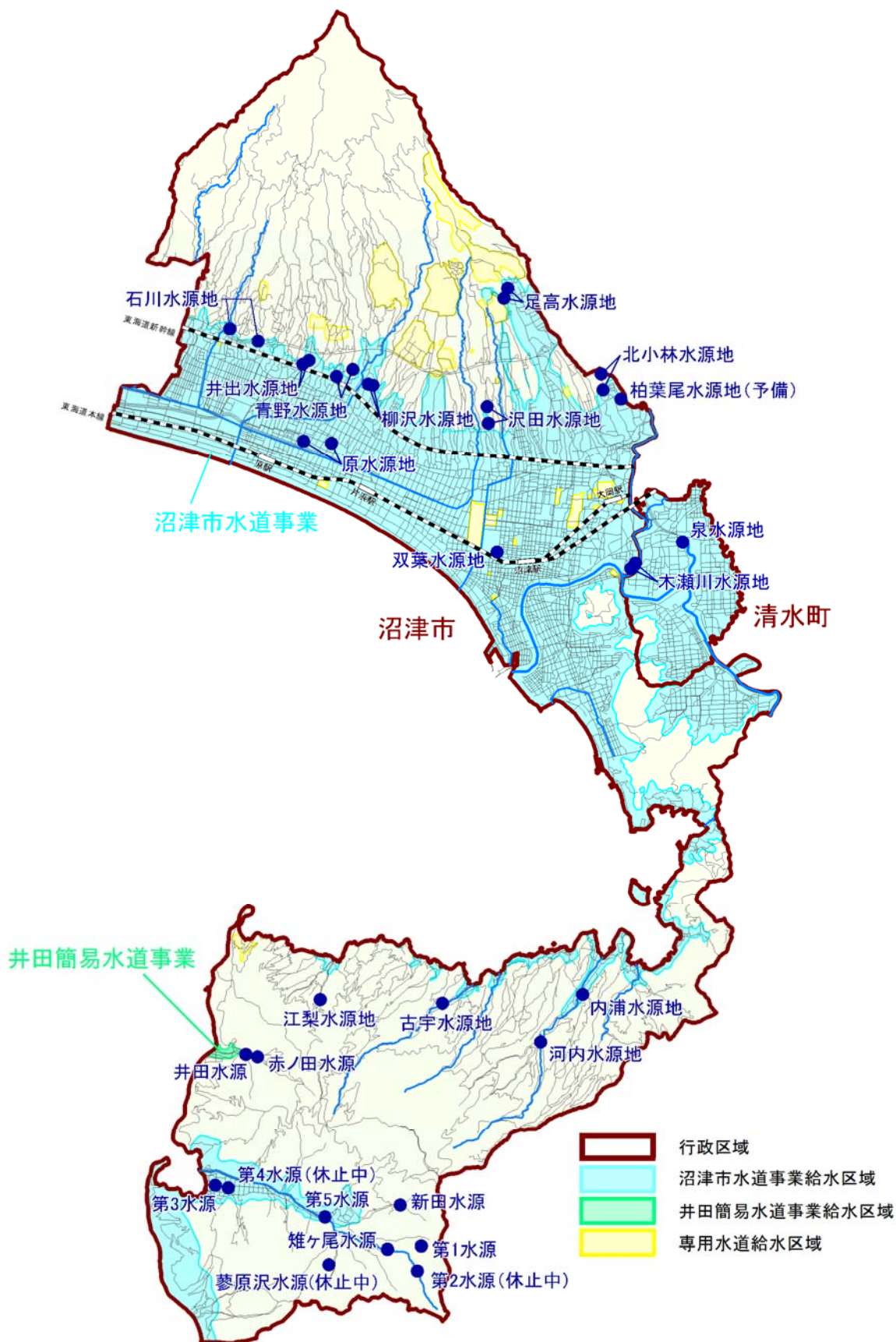
本市水道の施設は、水源 16 箇所（予備・休止中除く）、配水池 37 箇所（休止中除く）、加圧ポンプ場 9 箇所となっています。また、簡易水道事業では、水源 2 箇所、配水池 1 箇所となっています。

水 源

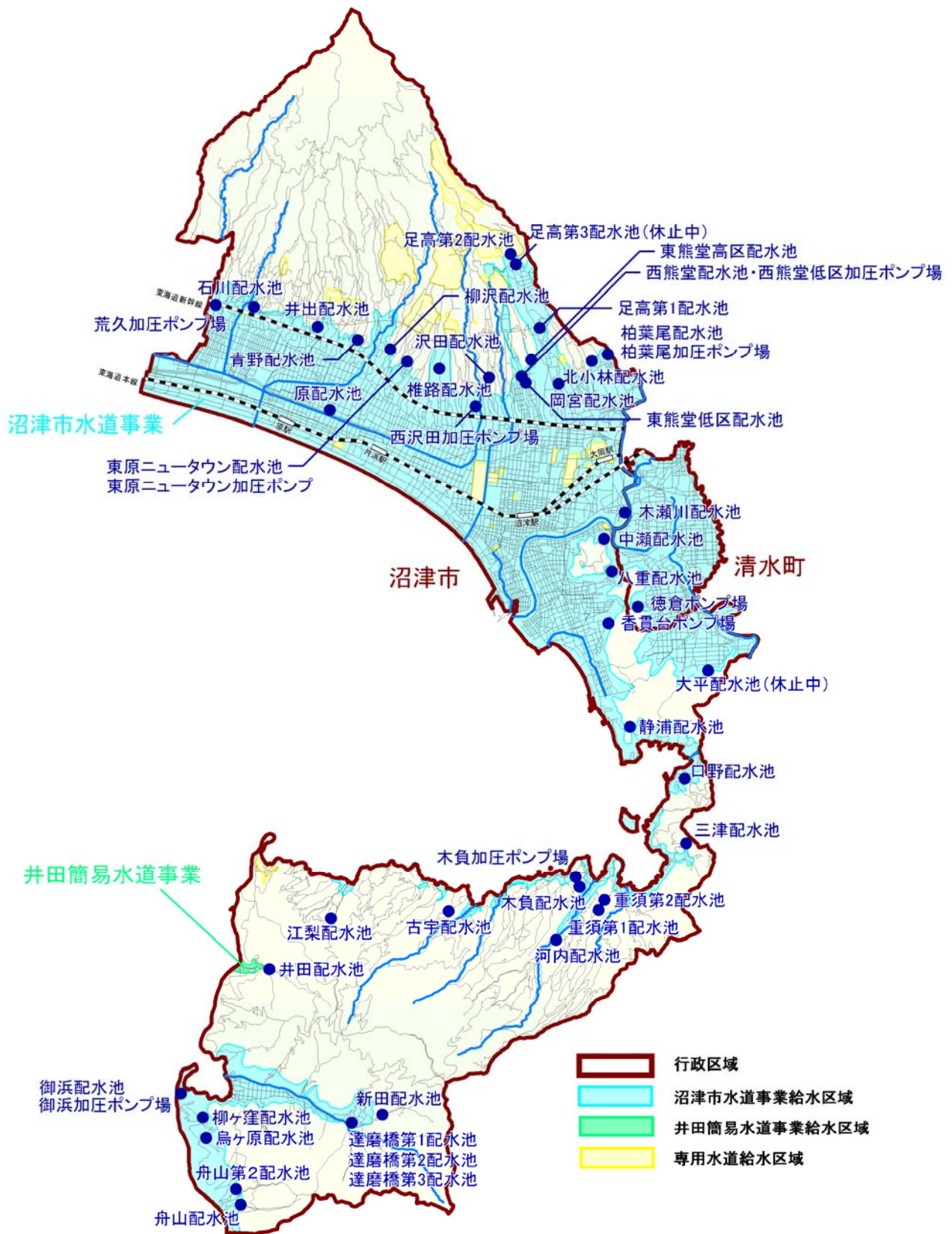
配 水 区	水 源 名	種 別	取 水 能 力 ( m <sup>3</sup> / 日 )	浄 水 方 法	
上水道	左岸配水区 (市域中央・大平・清水町 他)	泉水源地	深井戸・湧水	95,664	滅菌処理
	西部配水区	石川水源地、井出水源地、 青野水源地、柳沢水源地、 原水源地	深井戸	21,430	滅菌処理
	北部配水区	泉水源地、北小林水源地、 柏葉尾水源地(予備)、 足高水源地、沢田水源地、 木瀬川水源地、双葉水源地	深井戸・湧水	28,730	滅菌処理
	南部配水区	内浦水源地、河内水源地、 古宇水源地、江梨水源地	深井戸	2,980	滅菌処理
	戸田配水区	新田水源、第1水源、第3水源、 第5水源、雉ヶ尾水源、 第2水源(休止中)、 蓼原沢水源(休止中)、 第4水源(休止中)	表流水 伏流水 深井戸 湧水	7,010	マイクロストレーナ・紫外線照射 (第1、雉ヶ尾) 滅菌処理
	計			155,814	
簡易水道	井田配水区	井田水源、赤ノ田水源	表流水・深井戸	214	滅菌処理、緩速ろ過(赤ノ田)
合計			156,028		

配水施設

配 水 区	水源名	配水池	加 圧 ポ ン プ 場	
上水道	左岸配水区 (市域中央・大平・清水町 他)	泉水源地	中瀬配水池、八重配水池、 大平配水池(休止中)、 静浦配水池、口野配水池	香貫台ポンプ場、 徳倉ポンプ場
	西部配水区	石川水源地、井出水源地、 青野水源地、柳沢水源地、 原水源地	石川配水池、井出配水池、 青野配水池、柳沢配水池、 東原ニュータウン配水池、 原配水池	荒久加圧ポンプ場、 東原ニュータウン加圧ポンプ場
	北部配水区	泉水源地、北小林水源地、 柏葉尾水源地(予備)、 足高水源地、沢田水源地、 木瀬川水源地、双葉水源地	岡宮配水池、足高第一配水池、 東熊堂第一配水池(高区)、 東熊堂第二配水池(低区)、 西熊堂配水池、椎路配水池、 北小林配水池、柏葉尾配水池、 沢田配水池、足高第二配水池、 足高第三配水池(休止中)、 木瀬川配水池	西熊堂低区加圧ポンプ場、 柏葉尾加圧ポンプ場、 西沢田加圧ポンプ場
	南部配水区	内浦水源地、河内水源地、 古宇水源地、江梨水源地	重須第一配水池、 重須第二配水池、 三津配水池、河内配水池、 木負配水池、古宇配水池、 江梨配水池	木負加圧ポンプ場
	戸田配水区	新田水源、第1水源、第3水源、 第5水源、雉ヶ尾水源、 第2水源(休止中)、 蓼原沢水源(休止中)、 第4水源(休止中)	新田配水池、達磨橋第1配水池、 達磨橋第2配水池、 達磨橋第3配水池、 御浜配水池、柳ヶ窪配水池、 烏ヶ原配水池、舟山第1配水池、 舟山第2配水池	御浜加圧ポンプ場
	簡易水道	井田配水区	井田、赤ノ田	井田配水池



【水源の位置】

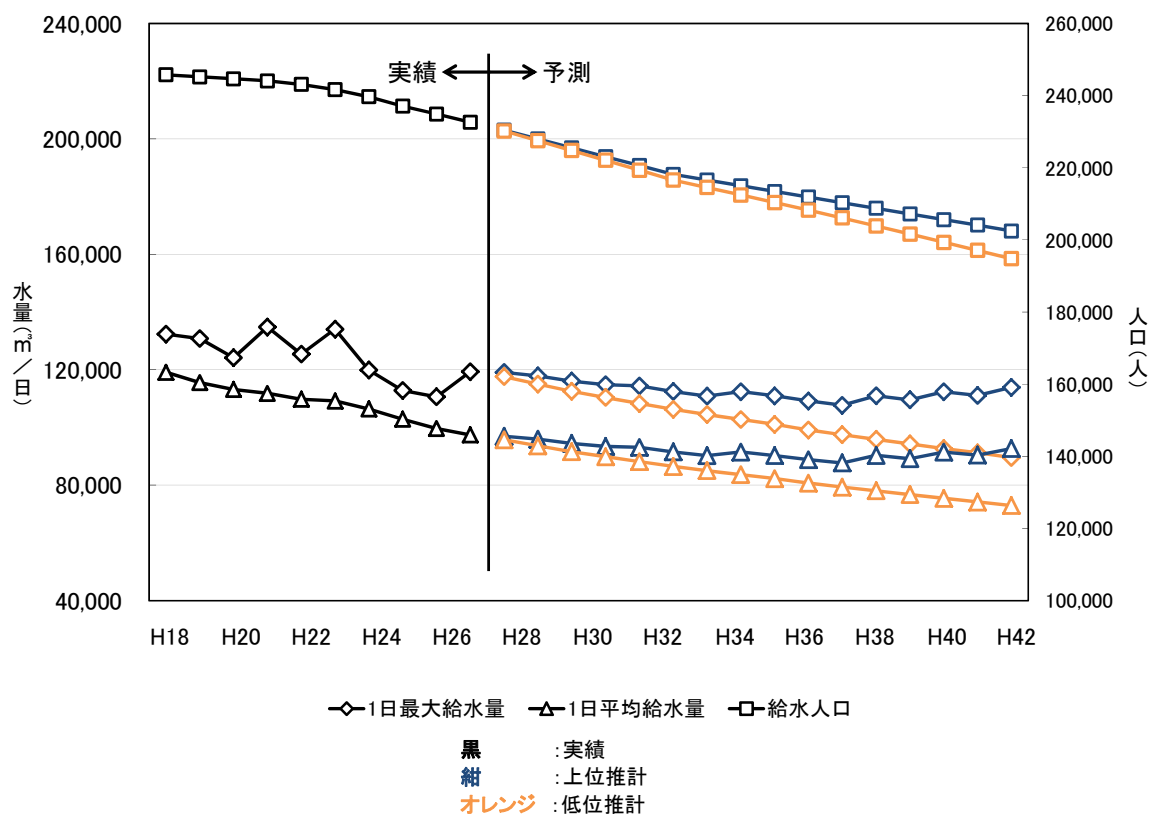


【配水施設の位置】

## 2.3 給水人口及び給水量

本市水道では、人口減少社会の到来や節水機器の普及などから、給水人口・給水量とも減少傾向にあります。平成17年から平成26年の10年間で、給水人口4.1%、1日平均給水量16.7%、1日最大給水量19.7%と、それぞれ減少しています。

今後も減少傾向は続くと考えられ、本ビジョンでは、平成26年度末に232,711人であった給水人口(水道事業と簡易水道事業の合計)は、平成42年度末には約194,800人(低位推計)、また、1日平均給水量は同期間において、97,500 m<sup>3</sup>/日から73,000 m<sup>3</sup>/日となり、それぞれ16.3%及び25.1%減少すると推計しています。



給水人口と給水量の推移

(参考資料: 沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、清水町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン)